



ABC 検診(胃がんリスク検診)を

正しく活用しましょう！

ABC 検診 (胃がんリスク検査) とは

胃の粘膜に生息するヘリコバクター・ピロリ (ピロリ菌) の感染有無と、胃粘膜の萎縮度 (ペプシノーゲン判定) を血液検査で調べ、胃がんのなりやすさを判定する検査です。胃がんそのものを見つける検査ではありません。

リスクに応じて定期的に胃カメラ(胃部内視鏡)を受けましょう。

※令和7年度は、胃バリウム検査→ABC 検診への切り替え費用を当組合にて負担いたします。ABC 検診は逐年行う必要がなく、原則として成人の場合は生涯一度でよいとされているため、令和6年度に組合補助にて検査を行った方の今年度の補助は対象外とさせていただきます。

ABC 検診のメリット

- ☑血液検査のみで判定ができるため、検査を受ける方の負担が少ない。
- ☑仮にピロリ菌の感染が分かった場合、除菌により将来の胃がん発生を抑制することができる。



重要 ABC 検診のデメリット

- ☑本検診にて低リスクと判断された方も、完全に胃がんのリスクが無くなるわけではありません。

特に下記に該当する方については、正しい結果が得られない可能性があるため必ず主治医にご相談ください。

胃、その他消化器系に 症状がある方	胃潰瘍、十二指腸潰瘍、 逆流性食道炎等治療中の方	胃酸を抑える薬を 服用中の方	胃を切除した方
慢性腎不全の方	ピロリ菌の 除菌治療を受けた方	抗生剤を長期服用 したことがある方※	免疫不全・低下状態 ステロイド服用中の方

※抗生剤を長期に服用する病気 (肺炎、中耳炎、蓄膿症など) の既往歴がある方は、知らないうちに除菌されている場合もあるので注意が必要です。

結果の見方と考え方

群分類		A群	B群	C群	D群	E群(除菌群)
ABC 法 ⁽⁵⁾	ピロリ菌 抗体価 ⁽⁶⁾	—	+	+	—	胃がんリスク層別化 の対象外 ⁽⁴⁾
	ペプシノ ゲン値	—	—	+	+	
胃粘膜状態の予測		胃粘膜萎縮は ない	胃粘膜萎縮は 軽度	胃粘膜萎縮が 進んでいる	胃粘膜萎縮が 高度	長期経過で胃粘膜 萎縮が改善傾向
胃がんの危険度		低			高	除菌で胃がん発生リ スクが34%低下 ⁽³⁾
1年間の胃がん 発生頻度予測		ほぼゼロ ⁽¹⁾	1000人に 1人 ⁽¹⁾	500人に 1人 ⁽¹⁾	80人に 1人 ⁽¹⁾	500人に 1人 ⁽²⁾
胃内視鏡検査		原則勧奨せず ⁽⁷⁾	定期的胃内視鏡検診、および専門医受診を勧奨			
ピロリ菌除菌		不要	他のピロリ菌検査陽性なら必要		除菌不成功例は 必要	

判定されたリスク (A~E 群) に
応じて、定期的に胃内視鏡
(胃カメラ) を実施しましょう。



(1)GHN (Gastro-Health Now) 1号. 2008.1.1 (2) Kamada T et al, Aliment Pharmacol Ther 21: 1121, 2005 (3) 日本ヘリコバクター学会
ガイドライン2016改訂版 (4)GHN増刊号. 2016.9.15 (5) Miki K. Proc Jpn Acad Ser B Phys Biol Sci 87: 405, 2011 (6)ラテックスキット
(GHN58号. 2019.5.1) (7) 自覚症状のある人、過去に画像診断を受けたことがない人は医師と相談(GHN 22号: 2012.10.1)